

◎共同研究

Kotake No.1 Tumulus Survey in Matuyama

松山市小竹1号墳の墳丘測量報告

遺跡発行会

はじめに

2025 (令和7) 年3月23日 (日)、遺跡発行会は松山市浅海(あさなみ)地区に所在する小竹1号墳の墳丘測量調査を行った。2005年以來、当会では旧北条市内における中・後期古墳の様相を知ることを目的として墳丘測量調査を継続して行っており、近年は風早歴史文化研究会と共同で測量調査にあたるなど、下表のとおり当墳が11基目になる。

No.	古墳名	測量年	No.	古墳名	測量年
1	小竹8号墳	2005年	7	小竹6・7号墳	2018年
2	西ノ谷古墳	2012年	8	小竹3号墳	2019年
3	小竹9号墳	2013年	9	打越古墳	2023年
4	若宮古墳	2014年	10	宮ヶ谷古墳	2024年
5	丸山古墳	2015年	11	小竹1号墳 (本報告)	2025年
6	新城3号墳	2017年			

以前から、浅海地区には海を支配した集団の首長墓と推測される約30m級の中期古墳が複数存在することが指摘されてきた。当墳は、その立地や規模から、そのひとつの古墳と推定されていたため、今回の測量調査に至ったものである。

測量調査には、正岡睦夫・河原茂・井出耕二・遠部慎・西村直人・十亀幸雄・山之内志郎の合計7名が参加した。

1 古墳の位置と過去の記述

小竹1号墳は、松山市浅海本谷字小竹乙27に所在する(第1図)。浅海原から内陸に入った北東にのびる低丘陵尾根の先端に築造されている。古墳からは北西方向に斎灘(いつきなだ)を眼下に眺めることができる。標高約32.3mに位置する。

当該地区の箱式石棺については、松岡文一『川之江市史 古墳時代編』(文献1)、正岡「北条市浅海の古墳」(文献3)、井出「北条地域の中期古墳」(文献4)などに小竹8号墳を中心として記載されている。これまで小竹1号墳単独では文献が少なかったが、最近の精力的な踏査により、正岡「小竹1号墳から3号墳について」(文献5)や河野摩耶・南武志「小竹1号墳の赤色顔料について」(文献6)、河原・正岡「松山市浅海小竹1号墳」(文献7)などがある。また『愛媛県内古墳』(文献2)には、「1 小竹1号墳 浅海本谷字小竹乙27 民(有地) 丘陵裾 畑 円径20(m)」と記載されている。

なお、測量調査にあたり2024年12月29日には風早歴史文化研究会の長尾 齊氏を含め、正

会所だより

5月例会のご案内

下記のように5月例会を開催します。よろしくご参集下さい。

『遺跡』57号の発行の都合上、例会を5月18日(日)と変更し、発送作業も合わせて行います。よろしくお願いいたします。

日時 2025年5月18日(日) 午前10時から12時30分

場所 愛媛県砥部町 そがめ塾 (tel 089-905-2925)

例会(10:00~12:30)

(1) 会所

①会誌『遺跡』第57号の配布と発送作業。

②今年度共同研究「愛媛の箱式石棺」について

(2) 発表 ①名本「相ノ谷1号墳の甕龍鏡について」

第199号目次

松山市小竹1号墳の墳丘測量報告	遺跡発行会	01-05
愛媛の漢式鏡(27報)相ノ谷1号墳出土の「甕龍鏡」再論(上)	名本二六雄	06-06
笠置峠を北へ越えた坂本龍馬	清水真一	07-10
愛媛東中南博物館インフォ5月	会所	10-10
受贈図書4月	会所	10-10
愛媛県内子町域の鬼の金剛(上)	十亀幸雄	11-15
会所だより	会所	16-16